



- ①「釜石地域リハビリテーション広域支援センターの活動紹介」
- ②③「じゃじゃじゃ交流会2023」
- ③④「障害がなくても嚙下障害を招く！オーラルフレイルについて」

釜石地域リハビリテーション

広域支援センターの活動紹介

釜石地域リハビリテーション広域支援センター せいてつ記念病院 前田 和成

当センターとして今回紹介するのは専門部会として設置した「釜石リハビリテーション療法士会」です。

東日本大震災を経験し、日本全国から多くの職能団体が来釜し支援活動する中、リハビリ職をコーディネートする地域のリハ職がいなかったことへの反省を踏まえ、医療圏単位でのPT・OT・STが共同したリハの組織化が必要と考え、釜石市の「在宅医療連携拠点チームかまいし」に協力いただき、釜石地域リハビリテーション広域支援センターの専門部会として、平成25年7月に釜石リハビリテーション療法士会を設立し、活動してきました。

活動としては、釜石市、大槌町の地域包括

からの要請に応じ、自立支援型地域ケア会議への参加者の調整や、介護予防事業、住環境アドバイザーの派遣調整等を行っています。

また、今では各種地域医療・介護関係の会議、地域包括の運営委員など当会に依頼があり、当会より推薦して参加できるようになっています。

地域リハ活動は広域支援センターが1施設で対応するには限界があり、地域で働くリハ職が協同して対応していくことが必要と感じています。釜石・大槌地域においては釜石リハビリテーション療法士会は地域の実情に沿ったシステムと思っています。



釜石保健所との共催による
介護予防地域支援事業



大槌町介護予防事業「お元気教室」
へのリハ職派遣

釜石地域リハビリテーション広域支援センター

住所：〒026-0052 岩手県釜石市小佐野4-3-7 せいてつ記念病院内

担当者：リハビリテーション科 理学療法士 前田 和成

連絡先：TEL：0193-23-2030（代表） FAX：0193-23-8838

じゃじゃじゃ交流会2023開催

作業療法士 吉田 雄哉

2023年9月9日に盛岡市のプラザおでつてを会場に岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業の一環として「じゃじゃじゃ交流会2023」が開催されました。



この交流会は高次脳機能障がいの当事者やその御家族、支援に関わる人たちが交流を図ることを目的に定期的で開催されていましたが、新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となりました。県内全域に案内を行い、当日は71名（当事者27名/御家族18名/支援者26名）の方に参加頂きました。会場では久々の再会を楽しみ、お互いの近況報告をする姿があちらこちらで見られました。

交流会は、第1部として文筆家鈴木大介氏を講師に招き「高次脳機能障害 戦略的当事者とは？」というテーマで講演し

て頂きました。鈴木氏は高次脳機能障がい当事者であり、病前からのルポライターとしての経験を生かして当事者表現としての執筆活動を続けている方で、高次脳機能障がいの症状やその対策を自身の経験も交えながらお話しして頂きました。

第2部では鈴木氏と岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会委員阿部類氏(当事者)による対談がもたれ、参加者からの質問や悩み事、それに対する対処方法などについてお話ししていただきました。



第3部はグループワークを行い、黄色いハンカチに日頃感じている様々な思いを書いていただき、参加者同士で語り合うこともできました。

講演や対談の中で、講師が話す内容が全てなのではなく、その人なりの不自由とその人なりの伝わる言葉があり、あらゆる立場の当事者が症状や不自由について自身の言葉で発信することが重要であると繰り返し話しがあり、支援者はその過程を支える必要があるのだと感じました。またグループワークでは、同じグループの中で日頃の困りごとやその対処方法について情報交換をする姿や、新たに交流の輪が広がる姿があり交流会の醍醐味がそこにはありました。

私自身今回交流会に初めて参加しまし

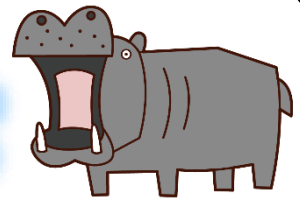
たが、病院に勤めているため退院後の生活や困りごとについて直接声を聴く機会があまり多くないため今回の交流会の経験は非常に有意義なものでした。今回学んだ知見や意見を今後の臨床場面に生かしていきたいと思います。



シリーズ 知って便利

障害がなくても嚥下障害を招く！

オーラルフレイルについて



摂食嚥下委員会（言語聴覚士） 小笠原 観菜

Q 最近、普通に生活している中でこんなことを感じませんか？

- むせやすくなった
- 滑舌が悪くなった
- 食べこぼしが増えた
- 口が乾きやすくなった
- 食欲がない
- 歯が抜けたままになっている
- 軟らかいものを好んで食べるようになった





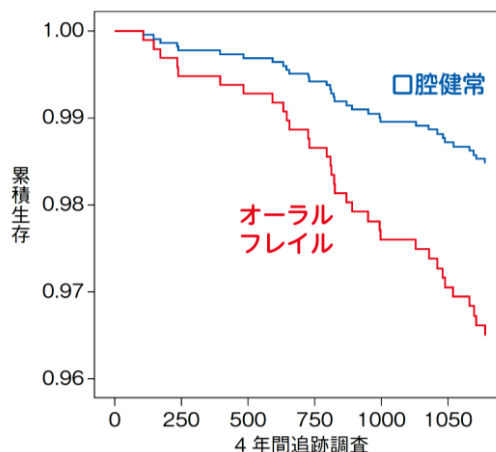
当てはまる項目が多かった方、「オーラルフレイル」の危険性があります！

「オーラルフレイル」とは？

高齢者の筋力や活動が低下している状態を「フレイル」と言います。フレイルの中でも上のチェックリストに挙がっているようなお口に関するささいな衰えが「オーラルフレイル」です。

ある調査によると、オーラルフレイルの人はそうでない人と比べ、2年以内に身体的フレイルを発症する確率が2.4倍、4年以内に死亡するリスクは約2倍ということがわかっています。

「オーラルフレイル」の人が抱えるリスク	
新規発症	
身体的フレイル	2.4倍
サルコペニア	2.1倍
要介護認定	2.4倍
総死亡リスク	2.1倍



出所：公益社団法人日本歯科医師会「歯科診療所におけるオーラルフレイル対応マニュアル 2019年版」



お口のささいな衰えは、今や日本での死因3位となっている誤嚥性肺炎のリスクも増える可能性があります！

歯やお口は本来多くの働きを持っています。それは「食べる」ことであったり、「話す」こと、怒る、笑うなどの表情変化が伴う「感情表現」や「呼吸」もそうです。これらの働きを日々の口腔ケアやリハビリで維持、向上させることが大切です。

<年4回発行>

発行●いわてリハビリテーションセンター 所在地●〒020-0503岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

TEL019-692-5800 FAX019-692-5807

Eメール●info@irc.or.jp インターネットホームページ●<http://www.irc.or.jp>